【研究発表】自作ルーブリックを用いたディベートの授業実践
～一人ひとりが課題を見つけるために～

２０１８．１２．９
田　中　琢　斗
於：愛知淑徳大学

１　実践のねらい

(1)　課題意識をもたせる

今回の取り組みの目的の１つは、生徒に「課題意識をもたせること」である。評論や小説の読解であっても、また古典の授業であっても、生徒は各自の課題をみつけ、それをこなすことで力をつけることが肝要だと考えている。しかし、つい生徒は受け身で授業に参加してしまう。

この状況を改善するために生徒に「自ら課題を見つけ、それを解決する」という体験をさせる必要があると感じた。したがって、今回のディベートの授業において、ディベート本来の目的である「論理的な主張をする」という大目的を掲げ、この大目的を達成するために個々人に必要な課題を、それぞれが考え実践するという方法をとることにした。

(2)　ルーブリックに慣れさせる

もう一つの目的が、ルーブリック評価に関してである。生徒が自他の評価を行うときにルーブリックを用いるが、常に課題が残る結果となっている。ルーブリックの項目を抽象的なものにすると生徒が適切に評価できず、具体的なものにするとこちらの意図が伝わりすぎて、そこに寄せた解答を生徒は用意するため、自主的・探求的な学びを導けなかった。

そこで、自身のルーブリックを改善していくことはもちろんだが、多少難しいルーブリックでも、生徒が上手く扱えるようになるため、生徒にルーブリックに慣れさせようと考えた。他者評価をする前に、自己の作ったルーブリックで自分を評価することで、ルーブリックによる客観的な評価とはどういうものかを学ばせようと考えた。

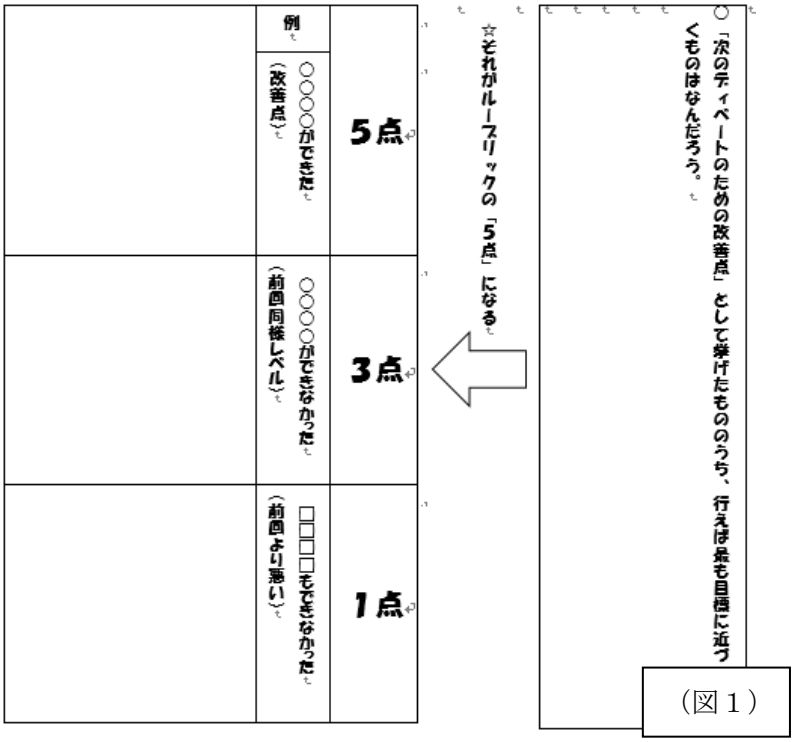
２　実践の概要

(1)　前回までの反省と自己評価用ルーブリックの作成

ルーブリックを作成するにあたって、今までに行った２回のディベートを振り返った。そして反省点を考え、その内、改善すれば目的に近づくものをルーブリックの５点に、３点は達成しても前回と同様のレベルになるもの、１点は必ず達成しなくてはならないもの、という３段階に設定させた。（図１）

(2)　ディベートの準備・実践

次の１時間、題について個人・班で考察を深め、準備をした後、ディベートを行った。ディベートを行っている間、ディベートに参加していない生徒が審判をする。見られているという意識と、三回目ということもあり、積極的にディベートに参加する生徒が大多数であった。



（図１）

特に今回、「○○さんが上手い」「○○のように相手を納得させる話し方をしたい」という声がよく聞こえてきた。対抗意識は上達につながるという点で、また「上手い人」がわかるということは、ディベートでのよい発表方法を理解していると判断できる点で、望ましい傾向だと考えている。

(3)　ディベートの振り返り

その後、今回の主眼であるルーブリックによる振り返りを行った。まず自分の達成度について５・３・１点の自己評価をし、その採点理由を書かせた。採点の結果、５点をつけた生徒は１０％（８人）、３点をつけた生徒は８０％（６２人）、１点をつけた生徒は１０％（８人）というものであった。

３　実践の反省と課題

授業の振り返りにおいて２つの質問を行った。

１つ目の、「ルーブリックにしたがって、自分や他の班を客観的に評価することができたかどうか」という問いに対しては、有効回答の全員が４段階で上から２つ以上に分布していた。ルーブリックというものに対して慣れることや、有効に利用するという目標は達成できたことがわかる。

２つ目の、「前回のディベートよりも目標に近づくことができた」という問いに対しても、８割近くの生徒が４段階で上から２つ以上を指していた。ルーブリックを自作したことで、各自の目標や課題が明確になっていることがわかる。

しかし、２－(3)で述べたように、ルーブリックによる自己評価では、８割にあたる生

徒が自己評価を３点としている。このことから、自己ルーブリックを作ったり評価したりすることはできても、大目的に対して最も効果的だといえる課題を設定することについては不十分だということがわかる。本実践の目的である「課題意識」は、もつことも重要ではあるが、自身の成長のためにより有効な課題設定ができたほうがよい。自作ルーブリックによる評価という方法を繰り返すことで、適切な課題を設定する力を身につけさせたいと思う。

ただし、すぐに達成できる（自己評価によって容易に５点をつけることができてしまう）課題を設定しても、飛躍的な成長は見込めない。したがって、２－(3)の結果も悲観すべきものではなく、今後の継続的な指導により、成長を楽しみにできるものと捉えたい。そして、ディベート以外の授業にもさまざまな形で自己評価の観点を取り入れ、生徒の成長を促したいと思う。（早大国語教育学会愛知県支部における研究発表資料）

立場を決めて、ディベートしよう

［　流れ　］

◇準備の流れ（今日）

1、賛成派・反対派に分かれ、個人でその派としての意見を考える。

2、班ごとになり、考えたことについて交流、意見を固める。

3、賛成班（5人8班）・反対班でディベート。見ている人（審判）を納得させた方の勝ち！

◇ディベートの流れ（次回）

0、配置につく（賛成班（5人）＋反対班（5）＋審判班（5）×2＝20人　×2）

1、賛成派の意見表明（聞きながら反対派は質問の準備）　3分

2、1を聞いて、反対派の質問→賛成派はその都度質問に答える。　3分

3、反対派の意見表明（聞きながら賛成派は質問の準備）　3分

4、3を聞いて、賛成派の質問→反対派はその都度質問に答える。　3分

5、補足があれば、賛成・反対両派どちらからでもする。

＋

審判の班（評価している班）により、どちらが勝ったかの話し合い　3分

6、1～5をもう一度繰り返し（まだディベートしていない班が行う）　15分

※5の後、賛成派・反対派どちらが勝ったかと、決め手（この意見が皆を納得させた！）を審判班に聞きます。

※ルーブリックによる採点は、まずディベートを見ながら一人で行う。

その後、「5」で、班で（班で一枚）は、自分が発表をしていないときに行う。

【個人で考えるワークシート】

１年　　組　　番（　　）

◇ディベートテーマ

「ごみ削減のため、普通ごみの廃棄を有料化する」という意見

◇チームの意見（決められたものに○を付ける）

私たちはこのことについて……です。

A　賛成・肯定　　B　反対・否定

◇詳細説明・理由

それは、／なぜなら……と考えるからです。

【班で考えるワークシート】

班

◇ディベートテーマ

「ごみ削減のため、普通ごみの廃棄を有料化する」という意見

◇チームの意見（○を付ける）

私たちはこのことについて……です。

A　賛成・肯定　　B　反対・否定

◇詳細説明・理由

それは、/なぜなら……と考えるからです。

◇根拠となる事実/データ

根拠としては、……このような事実から……だと言えます。

〔根拠となる事実・データ〕	〔意見・そこから言えること〕
・	→・
・	→・
・	→・

◆相手の論くの指摘/反論/質問（自チーム→相手チーム）

あなたがたの……という点について、……ではないですか？

〔想定される相手の論〕		〔それに対する意見・反論〕
・	→	・
・	→	・
・	→	・

◆想定される相手からの質問・それくの対応（相手チーム→自チーム）

あなたがたの……という質問については……だと考えます。

〔想定される相手の質問〕		〔それに対する説明・意見・反論〕
・	→	・
・	→	・
・	→	・

【ルーブリックとメモ】

一年　　組　　番（　　）

班

◇ルーブリック（採点基準）

	A	B	C
5	発表内容が賛成（反対）派として妥当であり、相手のチームを圧倒するものである。	質問に対し返答し、その内容に筋が通っており、納得できる。	班の全員が発表に参加し、さらに他の班員の説明に補足説明する等の協力が見られる。
3	発表内容が賛成（反対）派として妥当なものである。	質問に対して、返答はしているが、強く納得するものではない。	班の全員が一言以上発言し、発表に参加している。
1	発表内容が賛成（反対）派として妥当でなく、納得できない。	質問に返答することができない。	一言も発表せず、発表に参加しない班員がいる。

◇

	A	B	C	合計
班				
班				

MEMO

〈決め手になった意見〉

【最終ルーブリック】

☆この用紙は、二班のディベートを見ながら各個人が評価した後、班で話し合い、どちらがかったかを決めるときに使うものです。

自分の班

班

私たちは（　　班）と（　　班）のディベートを見ました。

私たちは

班

が勝ったと判断しました。

その決め手になったのは、

という意見です。

一年　　組　　番（　　）

○これまで、2回のディベートを行ってきました。その活動を振り返って、以下を埋めて欲しいと思います。箇条書きでたくさん書きましょう。

一回目の活動で感じた反省点

（右の反省を受けて）二回目の活動前に決めた改善点

それは十分に達成できましたか？（○で囲む）

・十分できた　　・少しできた　　・あまりできなかった

次のディベートのための改善点

ディベートの目標は：「論理的な主張を展開する力」をつけることです。
そのために、前回の反省を活かし、どうしたら目標を達成できるかを考え、自分のルーブリックを作成しよう。

○「次のディベートのための改善点」として挙げたもののうち、
行えば最も目標に近づくものはなんだろう。

☆それがルーブリックの「5点」になる

5点		3点	1点
例	○○○○ができた （改善点）	○○○○ができなかった （前回同様レベル）	□□□□もできなかった （前回より悪い）

○作成上の注意
・ルーブリックは「5点」「3点」「1点」の三つに分かれています。
・5点には今回達成したいこと（達成すれば前回よりも目標に近づくような行動）、
3点は前回と同じようなもの、1点は前回より悪くなってしまうようなこと
といったように項目分けしましょう。

『ディベート』振り返りシート

一年　　組　　番（　　）

☆自作ルーブリックによって、自分を評価しよう

今回の自分の活動は・・・

５　・　３　・　１　点（丸で囲む）

その理由・・・

☆５点を取れた人・・・よりよくするために、もっとできることはないだろうか？

☆３点や１点だった人・・・何が足りなかったのだろう。次回はどうしたら良いだろうか？

ルーブリックにしたがって、客観的に評価することができた。

（　よくできた　・　ある程度できた　・　あまりできなかった　・　全くできなかった　）

前回のディベートより、目標（論理的な主張をする）に近づくことができた。

（　よくできた　・　ある程度できた　・　あまりできなかった　・　全くできなかった　）

【今回のディベートの学習活動を通して身についたこと、感想を書いてください】